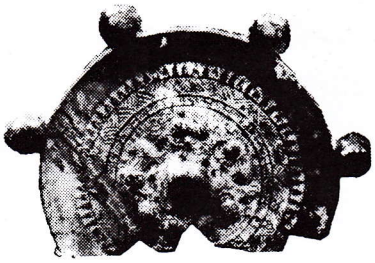
第 28 号　　平成15年6月1日

文化財やまと

大和町文化財保護協会発行



七鈴五獣鏡

多年の夢実現へ

文化財収蔵展示館の建設

会長　佐藤光一

関係の皆さんのご尽力と町長さんのご英断により、念願の「文化財収蔵展示館」が建設の運びになったことは、誠に喜ばしいことである。

昭和五四年六月牧地区の圃場整備工事中に東氏館跡庭園が発見され、その池泉部は中世武将の館跡庭園として学術的価値が認められ、同六二年に国の名勝に指定された。「古今伝授の里」の始まりである。

同六三年第三次大和町総合開発計画が策定され、そのシンボル事業として、「古今伝授の里」づくりが掲げられ、その拠点作りが進められ、平成五年七月一〇日、東氏文化の集大成と倭歌文化の全国への発信基地として「古今伝授の里フィールドミュージアム」がオープンした。

同七年「第四次総合開発計画」が策定され、総合開発審議委員の一人に故畑中浄園氏（当会副会長）が選ばれたのを機に、「文化財収蔵・展示館」建設の要望が高まり、建設計画が第四次総に加えられた。

大和町には、縄文時代後・晩期、弥生時代、古墳時代及び古代・中世の遺物が数多く発見されており、その質・量ともに郡下の他町村を凌駕している。また、東氏三四〇年の治世の以後にも郡上藩宝暦騒動関係の文書をはじめ、数々の貴重な文化財が遺されている。

大和町の文化財を考えるとき、私たちは東氏資料を中心に据え、東氏以前の遺物と東氏以後の史・資料を総合して初めて、これが大和町の文化財だと胸を張ることが出来ると思う。

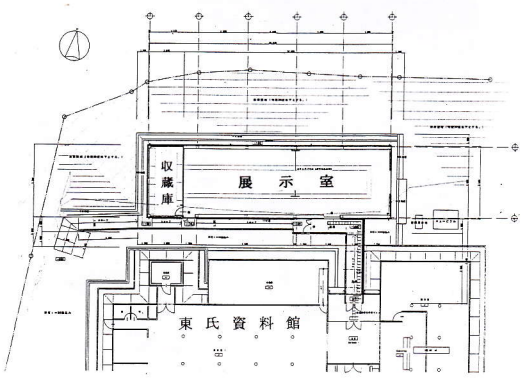
現在大和町には国・県・町指定の文化財が別表のように一三四件ある。その内、建築物・絵画・彫刻・書蹟・史跡・無形文化財・天然記念物等を除く文化財は、工芸品一二件・四一点、考古資料二八件・五一九点、歴史資料（東家関係を除く）九件・一八、四六六点、古文書六件・四五四点がある。これらの文化財は、ほとんど閲覧されることなく、倉庫に或いは所蔵者の家庭に保管されている。

一つにはこの文化財を世に知らしめること、今一つにはこれらの文化遺産を盗難・紛失・火災などから守り、後世に伝えて行くこと、そのためには、文化財収蔵展示館は欠くことのできない施設であるとして、その建設を十年にわたって繰り返し要望し、今日夢が実現する運びとなったのである。

建設場所は東氏資料館の続きで裏側。総面積一七五・四㎡（収蔵庫二六㎡、展示室一四九・四㎡）の予定である。

種目	指定別			
	国	県	町	合計
名勝	1			1
史跡		1	10	11
歴史資料		3	7	10
工芸品			6	6
天然記念物	1	3	18	22
絵画			10	10
建造物			6	6
考古資料		2	29	31
無形民族		1	4	5
彫刻			13	13
書跡			13	13
古文書			6	6
合計	2	10	122	134

大和町の指定文化財



蘇る社叢と景観

―地域住民の心意気―

日置康夫

平成一二年一月、明建神社々叢の内参道沿い鳥居前にある杉並木五本の枯損について、地元として町当局に対策の指導を仰ぐこととなった。

杉並木の一番手にある五本中消防ポンプ倉庫よりの杉の枯れ上がりが目立ち、目に付き易い位置にあるため、早急に手入れの必要がある。

平成五年にポンプ倉庫を杉に隣接して建てたのが誤りであり、今日の禍は多小なりとも予見されたと思われるので、残念である。今となっては建物の移転、敷地跡の復元が、杉の樹勢回復に一番の近道と考える。

牧区としても公民館建設を終えたばかりで、手元不如意なため、この件を持ち出す時期でなく、手入れの遅れを憂い、焦燥する気持ちも手伝って、「形振り」構わずその道の猛者を先頭に押し立てて町当局への陳情に及んだ。

町の助成を受けてポンプ倉庫を建設してからまだ日も浅く、移転に「大義名分」がなく、立木被害が予見ができなかったことに触れられると、釈明の余地なし…、聊か気の引ける思いであった。

取り敢えず樹木医の診断を受け、その所見に基づいて対応することで牧区としての意見が一致した。

平成一二年一一月末調査が実現した。町より「教育委員」・「文化財保護審議委員」、地元の区長・神社関係者が立会って調査が行われた。

神迎え杉から横参道を臨む(00.4)

同上(03.5)

雪の舞うとても寒い日であった。

樹木医による調査、その所見の説明があり、表層に施肥することにより樹勢の回復をはかる。施行例として、この方法がよい結果をもたらしている。緑の回復は一年目から効き目が現れてくるとの説明があった。枯損のひどい杉について、建物の撤去・敷地の原状復帰が最も効果的ではないかと迫ってみたものの、こちらの期待する処方箋につながるお墨付きは貰えず、この件の脈絡は切れる。

得てして行政の裁量に係るこの種の申し入れは、時として現場に関する専門家の所見に負うところがあり、今回の何とかしてとの思い入れで、「宮仕え」の域を越える発言を期待したが…、いずれにせよ当日の指導・助言に感謝し、また次なるラウンドと言うことにしたい。

さて、あれから二年経過。平成一五年の春には、手入れの効果があらわれ、樹勢はやや挽回し、緑の色が増して、まづは期待以上の成果があり、有難い。

この三月牧区の自力でポンプ倉庫を移転し、先人の残した嘗ての景観を取り戻すことが出来た。消防機能が十分生かせる、公民館よこに移転、百年の大計の基に建てられた。目出度い事

跡地には車止め

妙見大門に立ちて

土松新逸

である。

さて、ここでで社叢とポンプ倉庫の因縁について述べたい。大正一一年に当区に火災があり、それを契機に手押しポンプが導入された。

桜堤の中央を切り、倉庫が建てられた。九尺×二間の建物に、黒塗りの横板張りであった。その厚板に「牧消防喞筒倉庫」と群青色の岩絵の具で横書きしてあった。余談であるが、少年の時、この「喞筒」の字が珍しく、難解で、何となく馴染めず、妙にいつ迄も印象に残った。「ポンプ」はオランダ語で、「漢字を充てた」と辞書にある。

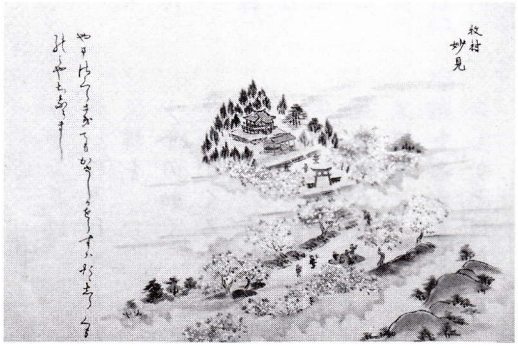
消防関係も自動車の時代となり、倉庫も手狭となって二回も建て替えられた。いずれも社叢内、横参道脇に建てられ、景観を損ねていた。神様にじっと我慢して頂いていた。昔の姿に戻し、先人の残した、そして意図した趣を大切に残したい。

ついでに社叢の規模・構図について書いてみよう。

一四～一五世紀、時の支配者東氏の守護神の社とあって、よく纏まって整備されていた。本殿・拝殿の正面が竪大門と称する参道で、この位置に杉並木がある。東西両端に七百有余年の大杉が横大門の印で、その間二三〇㍍余りに桜堤があり、結構な風情と遊び心を誘う。その昔の馬場跡といわれる。

郡上郷土史料の一つに「牧村妙見」と書いた、神社・桜並木を描き、満開の桜の堤で、町人らしいもの数名が「ゴザ」をしき酒盛りをし、扇子を片手に「コリャコリャ」と、滑稽に踊るさまがよく描かれている絵がある。神社、拝殿、石段の位置は今と変わらず、天保五年（注一八三四）と書いてある。もう一枚の絵は弘化の年代に描かれ「牧村妙剣桜馬場図」。桜の木八拾株と書かれている。神社拝殿は今のままの位置で、石段が克明に描かれ、鳥居前に武士が馬に乗り、下僕とともに竪参道に入ろうとしており、もう一人の武士が石段を駆け上ろうとしている躍動的な姿。人馬ともその雰囲気と一体感があって、轡を取る下僕の馬に対する用心深さまでよく出ていて、臨場感あふれる絵である。桜並木の堤では、満開の桜に着流しの浪人らしき者が二人描かれ、いずれも落し差しの遊び人風である。外に三人ほど町人風の遊び人とおぼしき者が描かれている。穏やかな春爛漫の様子がよく出ている絵であり、往時がしのばれて楽しい。

この稿を書いていたら、たまたま大和町より、明建神社の桜並木が「飛騨・美濃さくら三三選に推薦された」旨の連絡があり、その記念碑設置場所の問い合わせがあった。世は情報化の時代。この事が広く世間に喧伝されたら、神社にとってもフィールドミュージアムにとっても、ともに繁栄と発展につながることであろう。



牧村妙見（『復刻郡上郡郷土史料』より）

明建神社の社叢の内東西の桜並木（西神帰り杉から東神迎え杉まで二三〇㍍）を往時から大門と言っている。

文政九年（一八二六）から慶応二年（一八六六）にわたり妙見神社の宮司であった粟飯原豊後は、この桜並木に非常に関心を持ち、大事にしていた。彼はその記録「万留帳（よるずとめちょう）」に次のように記している。「当社大門桜は三月三日（当時は旧暦であった）満開なり、但し土用五日なり」「大門の桜三月六日満開なり、もっとも少々蕾もこれ有り候えども、七日雨天にて多分落下仕り候、土用より四日前なり、近年草木の進み甚だ以て早開なり」「当社大門の桜花三月二十八日真盛りなり、もっとも土用入りより九日目なり」「当社大門の桜花三月二十一日満開なり、土用入りより四日前なり、当年春花の頃寒さ来り、長く散り申さず候」「当社大門桜三月二十二日満開なり、土用より七日目、雨天にて残念なり、土用入りより二日目なり、てんきよく、見事なり」等々。また「当社大門桜本数老木より当年植えまで都合百十五本、内三本当植え、一本貰いなり、三月六日改め」「当社大門桜本数老木より当年植えまで百十八本、内二本当年植えなり、三月九日改め」というように現在本数を調べている

神帰り杉から横大門を望む

くこられたことを覚えている。一般の人々もよく来られたようである。

近年この大門の桜並木の下に、ひがん花（まんじゅしゃげ）がいっぱい咲くようになり、秋の彼岸ころになると、真赤なひがん花が咲くことを告げたい。筆者の少年のころには、この大門は子供の遊び場であった。ことに戦争ごっこでこの大門桜の下を走り回り、草を踏みにじったので、ひがん花は咲くこともできなかったのかも知れないが、近年の子供たちはこの大門で遊ぶこともなく、おかげでひがん花が伸び伸びと咲くようになったのだろう。筆者は先般このひがん花へ黒揚羽が来ているのを見かけて、写真に収めたことがあるが、この大門のひがん花へ黒蝶が沢山来るようになってくれることを祈るものである。

ひがん花に
舞い移り行く
黒蝶を
少年の如く
追いかくるなり

ひがん花を
舞い移ろえる
黒蝶は
逝きたる吾娘の
来しかとばかり

ことがある。

去る五月一日、筆者が調べたところ、全数が九八本で、内一一本が若木であった。豊後が調べた頃よりへっていることがわかった。

筆者が少年の頃（大正年間）南側の古木（先般高遠方式若返り法を施した木）が一番盛りであった。「田打桜」と言って、毎年春一番に咲き、枝振りも良く、美しく咲いていたことを覚えている。そのころには、大門の桜は郡上の桜名所であり、この桜の咲くころには、各学校から遠足をかねてこの桜見物によ

ひがん花に遊ぶ黒揚羽

2003年　感謝の旅

本川　喜代士

皆さんは高速での長距離運転の疲労状態を、ご存じですか？これまでの私の経験からですが緊張と集中力の連続は頭の芯を麻痺させ、思考力が削がれた様な状態が数日続きます。夜、床に入ってからもなかなか眠れず活字も受け付けません。最適の対処法は、何もせずボンヤリ過ごす事。只それだけなのです。

私的な話になりますが私共は今度の旅の前に東京での結婚式に参加、5日から11日までの一週間「車」での旅に踏み切り、往復約千キロの行程は今の私にはかなり厳しいものでした。今回の広島・山口行きはその僅か2日後、見送りも考えましたが、そうするには忍びず参加に踏切りましたので、私の体調は最悪でした。でも冒頭の文章は私ではなく今回のドライバーに注目して欲しいのです。

添乗の山本さんの話ですと、今度の山口行きは費用と距離とで一泊では限度に近い行程だとの事で、八幡ICから小郡ICまで千キロ近い行程を一泊だけで一人だけでの往復運転には頭が下がりました。去年の旅ではガイドさんが主役でしたが、今年は酒井田運転手でしょう。

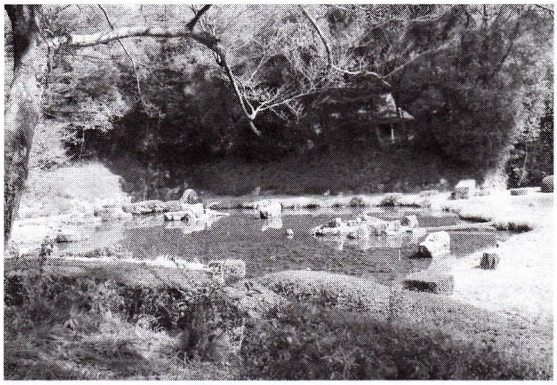
今度の旅行で最大のヒットは一番最初に広島を選んだ事です。残念ながら一週間後にイラクで戦争が始まってしまいましたが「是非ブッシュさんに来て見て欲しい」広島でのボランテアの説明員の熱意は炎の様でした。8・6と9・11どちらが悲惨であったか比較しても仕様がな

い事でしょうが、全く新しい恐怖に、為す術もなく亡くなられた原爆被災者の状況を淡々と語られた有代和夫さんのお話に身近な人が話す現実感がひしひしと感じられました。二番目に感謝すべき人、有代和夫さんです。

広島と錦帯橋は私共には二度目の旅でした。三十年振りに訪れた広島は記念碑も増え見所も多くなってバスで素通りするのは申し訳ない所でした。

「安らかにお眠り下さい過ちは繰り返しませんから」じっくり深く佇んでみたい所です。

広島平和記念公園にて



常栄寺　雪舟庭園（部分）

山口瑠璃光寺五重塔を背に

錦帯橋は工事中で見る時期ではなかったのかもしれません。工事用車両が橋のすぐ下に駐車していて橋の景観はだいなしでした。もう少し離れた場所にと思ったのは私だけでしょうか？新しく変わった三つの部分より残っていた二つの橋の方が趣がある様に感じました。

宮島は初めてで、大鳥居が島側にあるとは思ってもいませんでした。台風の度に数億円もの被害になるのは驚きでしたのともみじ饅頭のお店の客の入りのアンバラが気になりました。どの店も平等につぶれずに頑張って欲しいと思いました。

常栄寺の雪舟庭園、ここでもお土産お食事の、大きな看板が邪魔でした。美しい庭園は座敷に座って静かに眺めたい、誰も居なくなるのを待っていたら、見物時間は忽ちなくなりました。

瑠璃光寺の国宝の五重塔は、今回の旅行の最高のメーンだと思いました。開花し始めた梅や桃その他どんな樹木の間からの眺めも素晴らしく、塔に近寄る暇は有りませんでした。私は、それで満足でした。もう一度、是非訪れたい場所です。

美味しい昼食に満腹となり、観るべき所も全部見て後は車に揺られてお昼寝というのが定番でしょうが、そんな眠気を吹き飛ばす素敵な趣向が待って居りました。渡辺さんが感激されたというビデオ鑑賞です。第三の感謝の人、渡辺明夫さんには、多くの方が納得と思います。

私はこれまでにも懇意な住職との関係で、説法や聴聞は何度か行かされましたが、テレビを観て涙したのは初めてでした。南蔵院の林覚乗さんという住職「であい」を大事に、考え方を改め、一日一日を、明るく生きましょう。ごく当たり前の事を感動的な話に盛り上げる、その話術は見事なものでした。

「渡辺さん素晴らしいビデオを有り難うございました」会長の佐藤さんが、只一言お礼を述べられました。当をえて妙でした。

考えますと、有代、渡辺両氏を起用されたのも、旅のしおりその他、数々の用意をされたり最新のデジカメで旅の記録を残して下さるのも会長です。また仕事とは申せ旅行家の山本さん行く先々や弁当の手配、宴会の盛り上げまで懸命に努力されて居りました。話を聞いてみると業界の内情も、今大変だとか。

「来年も是非お願いしますよ」と、つい云ってしまいました。勿論幹事さんにもお世話になりました。そして更に考えました我が会には、有代さん渡辺さん以外にも人生経験豊かな人々が沢山居られるのだという事を。この春、3月5日からの十日間で茨城県那珂ＩＣから、山口県小郡ＩＣまで、日本列島の半分を縦断する様な、往復約三千キロを走破し大変でしたが、多くの心豊かな方々との一緒の旅に、楽しく酔いしれた様なバス旅行でした。

今回は高速を利用しましたが平常はなるべく利用せず、普通

の道のマイペースでのドライブを楽しんで居ります。

車の少ない辺鄙な国道や山間部を走っているとき、周りに展開する風景が、如何に多様な緑に彩られている事か！

そんな時、私は四季折々に変化する平和な日本に生まれた幸せをしみじみ感じるのです。

「旅によせて」

大野紀子

三月十三日は晴れてさわやかな旅立ちでした。広島をはじめ岩国の錦帯橋、山口の瑠璃光寺・常楽寺の雪舟庭園など世界遺産や国宝、なかなか見ることのできない名所等を案内していただき、とても有意義な二日間を過ごすことができました。

最初の目的地である広島の原爆ドームそして平和公園に着いた時、私は三十年程前この地を訪れたときのことが鮮やかによみがえってきました。

当時はまだ主人の母は健在でした。毎年七月の終りには「兄弟会」で二泊の旅行をしていました。その年は義母の「もう一度訪れてみたい」という言葉で広島のこの地と墓地そして呉の情島へ行きました。主人には兄弟が多くありますが、兄の一人彰さんが戦死をしていました。それは広島へ原爆投下のあった十四日前のことでした。戦艦「日向」が情島沖に停泊していた時に爆撃され、その艦上で亡くなったそうです。奇しくも徳永の猪俣先生は岐阜師範の同級生で、爆撃を受けた時に一緒だったことを五十年後になって知りました。情島は小さな島で住む人もいませんでしたが、当時を知る人が私たちの訪れることを聞き、先に島へ渡り待っていて下さいました。そこで兄弟揃って懇ろにお勤めをしたことでした。

大切な息子を失った当時の母親の悲しみ、そして老いてもなお当地を訪れたいという思いの深さは尊いものだと思うものの、義母の心情は如何ばかりであったでしょうか。情島へはその後彰さんの五十回忌法要を勤めるべく「兄弟会」ででかけましたが、其時はすでに義母は亡くなっておりました。義母や義兄姉たちから、よく彰さんの思い出話やらその人柄など聞かされていましたし、情島へも連れていってもらいましたので、一層親しみを覚えていました。

平和公園の「あやまちは、くりかえしませぬ」と刻まれている碑はそして鶴をかかげて立っている少女の像は三十年前と同じように再び私の胸を熱くしました。資料館の写真や遺留品にそして当時の様子を綴った本の中には苦しみの中から親が子を、子が親を、兄弟がそして隣人や行き会う者お互いが労わり助け合う姿がにじみでています。『戦争にいのち奪われたあなた方よ』と題し「清らかなる光り舞い輝くとき　音もなく　世界の大地のここ　かしこから　起き　立ち上がる　あなた方。蒼ざめた地のそこは揺れ　地の慟哭がわき上がる。戦争にいのち奪われたあなた方よ。あなた方がいま　その至純なる眼のうちに映しとられているものは何か。」と詩われている高史明さんの詩をおもいます。貴い命が戦争によって失われてしまう恐ろしさと無惨さは二度とあってはならないと強く思いました。私とは関わりのなかった義兄彰さんが今ここに平和の大切さを語りかけてくれているような気がしました。そして私の子供や孫たちにも必ずこの地を訪れてほしいと思ったことでした。

遠くイラクは砂漠の地と聞きます。イラクの空にも今日のように晴れてさわやかな風もあるのでしょうか。人々がゆったりとした青い空を安らかに見つめて暮らせる日が早く訪れることを思った旅でもありました。

うつし世に
地獄は人の
作為なる
身をもって告ぐ
骨のドームは

天空に
向かいて鶴を
かかげ立つ
少女の像は
永久にさやけし

「安らかに眠ってください　過ちは繰り返しませぬから」

永保寺を訪ねる

佐藤光一

研修部の皆さんのお骨折りで、一〇月の日帰り研修は東濃地区の文化財見学と決まり、その目玉として多治見市の永保寺が含まれていた。

永保寺観音堂・心字池・無際橋

永保寺には県下に二つしかない国宝建築物と数多くの重文級の文化財があることは以前から聞き知っていたが、訪ねるのは今回がはじめてである。事前にお願いすれば本堂（観音堂）の内陣も拝観できるのではないかと言うことで、電話で伺うと、執事さんの返事は「当寺は修行道場で、雲水たちが修業の支障になるので、内部の拝観はお断りする。」と言われ、おまけに拝観の日時、参加人数当を記入した参観願いを提出してくださいとのことであった。提出すると、程なく「酒気を帯びたものの入山を禁ず」など数項目の厳しい条件を示した「拝観許可証」が届いた。

どんよりした曇り空も、多治見に着いたときには薄日が射すほど回復していた。

路地を思わせるアプローチの奥に美しい紅葉が私たちを迎えてくれる。境内へ入るとすぐ金色に耀く大銀杏が目に飛び込んでくる。そして右手には国宝・観音堂の強い軒反り（のきぞり）の美しい入母屋造り桧皮葺の二重屋根が木々の間に見える。一目見てその美しい姿の虜になってしまう。

先ず受付に進み、拝観許可証を提出する。執事は黙ってそれを受け取ると、傍らの箱の中に入れるが、一言も発しない。私も一礼してその場を去る。

逸る心を抑えて、大銀杏、鐘楼、方丈等々を撮影し、いよいよ観音堂を拝観することにした。

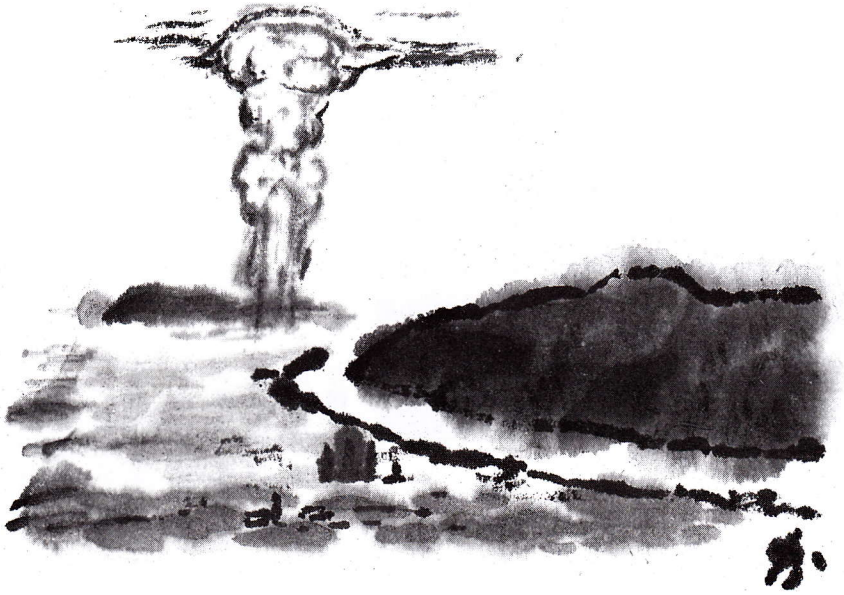
観音堂は、切り立った岩山を背景に、前には無窓疎石の作と言われる庭園の中心を占める心字池・優雅な無際橋を配した禅宗様建築と言われる建物で、周囲の景観によくマッチしている。

平面は方三間の身舎（もや）に一間の裳階（もこし）を付けている。全体としては方五間で、前面裳階部分は一間の板敷きの吹放ちになっていて、建具はなく波形連子（れんじ）の弓欄間が付いている。屋根は入母屋造り、桧皮葺で、二重になっている。また、軒裏は垂木を見せない板張りになっている。実に堂々としておりながら、優美でいつ迄も去りがたい魅力を湛えている。

もう一つの国宝開山堂は、心字池をめぐったやや奥まったところに建っている。垣がめぐらされていて、中に入ることが出来ないので外陣しか拝観できない。この建物は、一重入母屋造り、桧皮葺で、軒反りは観音堂と同じように優美である。内部には開山である元翁本元（げんのうほんげん）の墓塔である宝篋印塔が祀られ、その前に元翁の木像と並べて、実質的な開山である夢窓疎石の木像が安置されているとのことである。

この二つの国宝を心行くまで拝観した後、池を中心とした庭園のすばらしい紅葉に見とれていると、もう次の見学地への出発時間になっていた。

永保寺開山堂



大竹から見た〝ピカドン〟右は宮島
有代和夫画

文芸欄

短歌

永保寺庭園・大正村

土松新逸

国名勝永保寺庭園の紅葉に
今日の一日を酔いたるごとし

紅葉の真盛りに来たる喜びを
語りつつもとおる今日のしあわせ

板橋を渡れば国宝観音堂
ひっそりとして門閉じませる

紅葉も橋も写りし庭池は
真昼静かに波も立たざる

明治に生まれ大正に育ちたる
我に大正とう名のなつかしも

かやぶきの大きな家に育ちたる
大正の日の今はこおしき

しのわきの空

金子政子

一片の白雲浮かびまじろがず
絵をみる如きしのわきの空

一斉にこぶし咲きいず豊年の
きざしならむと明るき話題

古今橋渡りて花に会いにゆく
しだれ桜は手をひろげ待つ

枯れてゆく老木もと実生なる
桃の若木よいのち受けつぐ

「亡き人の思出ありて生きてゆく」
読書にひろうまことの言葉

四つ割りの碑

井俣初枝

冬の日は六字のみ名に影をおき
廃仏毀釈の村訪ねいぬ

四つ割りの碑の深彫りをなぞらえて
合掌唱偈石の感触

一ヶ寺もなき神道の村たずね
廃仏毀釈の本購いぬ

安らぎの碑は夕闇にひっそりと
語り部となり村に息づく

俳句

文化財の旅より

河合　美弥子

空晴れて古刹巡りの長閑さよ
春の海穏やかにして耀ひぬ

被爆碑に来て先づ祈り春の風
波光り浮かぶ宮島遠霞
幾年も経てなほ美し塔の春

筧　明代

宮島のうしお長閑に連絡船
折鶴の少女の眞上春の雲
厳島能の舞台に春の潮
春日濃し瑠璃光寺に名残惜し
草餅と錦帯橋に摘みくれし
悲しみをあらたにドーム春浅き

歌舞

高橋義一

花一気に世間一気に歌舞へり
妙見の花やロマンを吹雪きける
鈴鳴らし神誘ひけり花の路
小督（こごう）の琴花震はせし嵐山
花篝（はなかがり）魔女座しまして歌乱舞

絶世の美人で琴（こと）をよくした小督（一一五七）は、高倉天皇の寵愛を受けて第一内親王を生んだ。平清盛も娘腹（ふく）を高倉天皇に仕えさせていたので、小督は清盛の怒りを買い、内親王出生の直後、嵯峨野に隠れた。勅により宮中に連れ戻されたが、清盛に捕らえられて尼にされた。時に二三歳であった。いま嵐山の向い左岸に同尼の庵が遺されているが、悲しみにくれて弾く琴の音があたりに響いたと伝えている。なお、腹は高倉天皇の子、安徳天皇を生み、のち壇ノ浦の戦いで、共に御入水。

平成十四年度　事業報告

4月15日(月)　「文化財やまと」編集委員会。アンケートの実施について、原稿依頼について
5月2日(木)　研修部会（東大寺展観覧計画）
6日(木)　執行部会、役員会提出議題について
10日(金)　監査会、役員会、出席19名。平成13年度会務・決算報告について、平成14年度事業計画・予算案について、平成14年度総会について、東大寺展観覧について、会費徴収について
30日(木)　「文化財やまと」編集委員会
6月5日(水)　東大寺展等観覧、参加者49名
14日(金)　郡上文化財保護協議会第1回理事会
21日(金)　平成14年度総会（土松新逸感謝状贈呈他、出席者31名）
会報「文化財やまと」発刊（発行部数350部）
30日(日)　郡上文化財保護協議会町村文化財めぐり（明宝村）参加者37名
7月11日(木)　執行部会
17日(水)　第2回役員会（収蔵展示館、東氏館跡等奉仕活動、各部会、等々）
28日(日)　東氏館跡庭園池泉清掃・阿千葉城跡清掃、参加者32名
8月7日(水)　薪能協賛
9月10日(火)　第3回役員会。町民祭参加について
10月17日(木)　研修部会
21日(月)　役員会、秋季日帰り研修について
10月26日(土)～27日(日)　町民祭
11月15日(金)　秋季日帰り研修、参加者56名
12月14日(土)　第4回役員会、事業・会計中間報告、懇親会その他
1月30日(木)　執行部会
2月18日(火)　研修部会（14年度1泊研修について）
2月25日(火)　第5回役員会、14年度1泊研修について、役員改選について、その他、郡上文化財保護協議会第2回理事会
3月13日(木)～14日(金)　1泊研修の実施。広島、宮島、錦帯橋、常栄寺・雪舟庭園、瑠璃光寺、参加者47名

●年度内会員物故者
此島修二さん　謹んでご冥福をお祈りいたします。

平成十五年度　事業計画

4月10日(木)　郡上郡文化財保護協議会第1回理事会
4月21日(月)　執行部会（役員改選、年間事業計画当について）
「文化財やまと」編集委員会。原稿依頼について
4月23日(水)　文化財収蔵展示館建設促進委員会（町民学習課、執行部合同）
5月6日(火)　執行部会、役員改選・役員会提出議題について
10日(土)　「文化財やまと」編集委員会
25日(日)　監査会、役員会。平成14年度会務・決算報告について、平成15年度事業計画・予算案について、平成15年度総会について、会費徴収について
6月11日(水)　平成15年度総会。会報「文化財やまと」発刊（発行部数350部）
22日(日)　大和町の文化財視察（午前・町民センター、午後・フィールドミュージアム）
期日未定　郡上文化財保護協議会町村文化財めぐり（美並村）
7月3日(木)　執行部会
16日(水)　役員会（収蔵展示館、東氏館跡等奉仕活動、各部会、等々）
27日(日)　東氏館跡庭園池泉清掃・阿千葉城跡清掃
8月7日(水)　薪能協賛
9月　第2回役員会（文化財収蔵展示館の陳列について）
10月　研修部会
役員会（秋季日帰り研修・文化財収蔵展示館について）
町民祭
11月　秋季日帰り研修
12月　第3回役員会、事業・会計中間報告、懇親会その他
郡上文化財保護協議会第2回理事会
1月　執行部会
2月　研修部会（15年度1泊研修について）
2月　第4回役員会、15年度1泊研修について
3月　1泊研修の実施

◎以上のほか、10月に予定されている文化財収蔵展示館の完成に向けて、最善の展示ができるよう展示品、展示方法等について研究に取り組む。

平成十五年　四月末現在

会員名簿（順不同）

■剣

山下運平（顧問）八八－二四〇六
籏　勝美（顧問）八八－二〇三一
村瀬喜八　八八－二一二八
河合俊次（理事）八八－二二四六
畑中澄子　八八－二五〇七
畑中定夫　八八－二一一六八
小池久江（理事）八八－二五七六
山下ふみえ　八八－三二二七
加藤正恵　八八－二一一〇七
高橋　明　八八－二四八八
加藤文蔵　八八－二八〇二
佐藤光一（会長）八八－三二〇一
佐藤八重子　八八－三二〇一
田中和久　八八－二二〇〇
高橋義一（副会長）八八－三七九二
高橋叙子　八八－三七九二
河合　恒　八八－二三五八
河合芳英　八八－二三〇四
加藤小弐　八八－二三二九
森前とし子（理事）八八－三四七九
新蔵　守　八八－二三七五
岩崎扶美子　八八－三五二一
河合利雄（理事）八八－三五二〇
河合美弥子　八八－三五二〇
山内　博　八八－三八八六
山内悦子　八八－三八八六
河合善吉　八八－二一〇三
小池祐二　八八－四〇六四
小池圭子　八八－四〇六四
林　千里　八八－三三三三
山田峰夫　八八－一〇七〇
佐藤公子　八八－二一六一

■大間見

村井正蔵　八八－二三二三
大野一道（理事）八八－二二〇三
大野紀子　八八－二二二三
野田英志　八八－二二八五
清水一作　八八－三〇八六
池田充彦（理事）八八－三〇九〇
小野江　勉　八八－二七二五
坪井政夫　八八－四〇九二
松井賢雄（理事）八八－三九九一
古田　忠　八八－四〇九〇
藤代順行　八八－三〇六〇
玉木吉郎　八八－三四一五
青木ふじ枝　八八－二二〇三
小野木花子　八八－二七四七
青木ユリ子　八八－三四七七
日置哲夫　八八－四五一九

■小間見

平沢　勤（会計）八八－三九三七
田代善一　八八－三九六五

■万　場

畑中真澄　八八－二四四一
石神尭生　八八－二四一三
稲葉和巳　八八－二五〇三
黒岩きくゑ　八八－二四六〇
筧　伸雄　八八－二五三二
筧　明代　八八－二五三二
三島秋男（理事）八八－二四六一
桑田和子　八八－二四一九
桑田渥見　八八－二四四六
桑田アサ子　八八－二四三九
桑田信夫　八八－二四一八
黒岩弘美　八八－二四五八
井俣赫美　八八－二七五八
井俣初枝　八八－二七五八
青地正男　八八－二四四七
大井静子　八八－二三三八
大井正明（書記）八八－二八九四
大井次子　八八－二八九四
井上妙子　八八－三五〇八
沢原　勝　八八－三一五〇
沢原美幸　八八－三一五〇
山田武司　八八－二四七五
山田和美　八八－三六三一
籏　清子（理事）八八－四一七〇
山田敬子　八八－三九一七
大井ともゑ　八八－二八九三
三輪孝子　八八－二七八二
桑田守夫　八八－二五一四
大中弘美　八八－三五〇六
大中春子　八八－三五〇六
鷲見　務　八八－二六五一
鷲見三津子　八八－二六五一

■徳　永

鷲見　清（理事）八八－二〇〇五
鷲見おと　八八－二一八九
矢野原幸子（理事）八八－二〇七七
水野志づ子　八八－二六一〇
山内孝一　八八－二六一六
山内喜久子　八八－二六一六
土松新逸（名誉会長）八八－二七三一
遠藤賢逸　八八－二二二一
遠藤冨貴子　八八－二二二一
渡辺明夫（理事）八八－二六九五
渡辺文子　八八－二六九五
木島三郎　八八－三五九〇
矢野原吉夫　八八－二一三九
村瀬弥一　八八－二六〇二

■河　辺

清水幸江　八八－二〇一九
清水美佐子　八八－二〇二一
前田　孝　八八－二一〇一
前田とせ子　八八－二一〇一
前田和美　八八－三六六六
前田　鈴　八八－三六六六
臼田百合子　八八－二〇四六
岩谷千代子　八八－二一一一
尾藤　清　八八－二一四七
尾藤元子（理事）八八－二一四七
岩谷敏子　八八－二〇六三
鷲見長子　八八－二〇二八
熊田冨子（理事）八八－二六七九

■神　路

森　忠敬　八八－二〇八三
臼田宝徳　八八－三七三〇
羽生　清　八八－二二七一
山田真人（理事）八八－二一一四

■牧

金子政子　八八－三四二六
滝日準一（理事）八八－二七〇五
滝日美代子　八八－二七〇五
粟飯原常人　八八－二三六二
日置貞一　八八－二六六二
土松貞二　八八－三九八〇
日置　昇　八八－三六三六
遠藤千津子　八八－三六三七
遠藤光平　八八－三九八一
遠藤周一　八八－二八九〇
滝日義一（理事）八八－三〇六二
滝日和子　八八－三〇六二
滝日　治　八八－三四〇六
滝日敬子　八八－三四〇六
田口勇治（監事）八八－三九五〇
加藤一男　八八－二八七〇
日置元衛　八八－三四一七
粥川　溜　八八－三三七八
本田欽一（理事）八八－三一六〇
野田嘉明　八八－三〇四三
尾藤佐紀子　八八－二三五三
遠藤甲子男　八八－三九三五
早瀬ふみ子　八八－三三二七
日置康夫　八八－三七八八
国居利男　八八－三四八二
日置清子　八八－三六三六

■栗　巣

島崎増造（監事）　八八－二二三六
増田洋子　八八－四〇四一
筧　政之助（理事）　八八－四〇三一
中山周左ェ門　八八－二七二八
野田恵光　八八－四〇二七

■古　道

細川　優（理事）　八八－二八六一
清水克巳　八八－二八六二
清水行雄　八八－三九〇八
清水久子　八八－三九〇八
歳藤堅正　八八－三九七九

■名皿部

有代真一（副会長）　八八－三七九一
有代紀子　八八－三七九一
有代和夫　八八－二二〇一
森下正則　八八－三四一三
佐尾チドリ（理事）　八八－三五四四

■島

森藤雅毅（理事）　八八－二六八四
山田長次　八八－三六四八
森　数雄　八八－二五五四
田中　篤　八八－二七九二
奥田昌明　八八－二五二〇
直井篤美　八八－二六二二
雉野尚子（理事）　八八－三五六四
遠藤利雄（理事）　八八－三五二六
石井敏子　八八－二五〇二
本川喜代士　八八－三八三三
本川清子　八八－三八三三

平成14年度　決　算　書

（収入の部）　（単位：円）

項目	予算額	決算額	増減	摘要
前年度繰越金	34,060	34,060	0	
会費	1,625,000	2,253,500	628,500	
会員会費	315,000	304,000	△11,000	正会員　2,000×143名 家族会員 1,000×18名
特別会費	1,310,000	1,925,000	615,500	日帰研修 372,500+378,000 1泊研修　1,175,000
年末役員会費	0	24,000	24,000	
助成金	100,000	100,000	0	大和町より　100,000
寄付金	10,000	20,000	10,000	町長・土松　各10,000
雑収入	7,540	51,001	43,461	利子1　CD51,000
合計	1,776,600	2,458,561	681,961	

（支出の部）　（単位：円）

項目	予算額	決算額	増減	摘要
会議費	35,000	51,245	16,245	
総会費	15,000	11,885	△3,115	
役員会費	20,000	39,360	19,360	
事業費	1,563,000	2,054,900	491,900	
研修費	1,418,000	1,977,900	559,900	日帰研修　369,719円 日帰研修　434,228円 1泊研修　1,173,953円
会報発行費	95,000	63,000	△32,000	
事業活動費	50,000	14,000	△36,000	郡上郡内文化財めぐり
事務局費	11,000	3,240	△7,760	
消耗品費	5,000	0	△5,000	
通信費	3,000	3,240	240	
旅費	3,000	0	△3,000	
会費（県・郡）	84,000	84,000	0	
積立金	60,000	150,000	90,000	
予備費	23,600	13,500	10,100	感謝状　外
合計	1,776,600	2,356,885	580,285	

収入 2,458,~~849~~561 － 支出 2,356,885 ＝ 101,676円
（次年度へ繰り越し）

積立金　360,000円（平成7～12年）＋150,000円（平成14年）＝510,000円

平成15年度　予　算（案）

（収入の部）　（単位：円）

項目	前年度実績	予算額	増減	摘要
前年度繰越金	34,060	101,676	67,616	
会費	2,253,500	1,482,000	△771,500	
会員会費	304,000	303,000	△1,000	正会員　2,000×140名 家族会員 1,000×23名
特別会費	1,925,000	1,155,000	△770,500	日帰研修 8,000×35名 1泊研修 25,000×35名
役員研修費	24,000	24,000	0	役員研修会費　1,000×24名
助成金	100,000	100,000	0	大和町より　100,000
寄付金	20,000	10,000	△10,000	
雑収入	51,001	324	△50,677	
合計	2,458,561	1,694,000	△764,561	

（支出の部）　（単位：円）

項目	前年度実績	予算額	増減	摘要
会議費	51,245	35,000	△16,245	
総会費	11,885	15,000	3,115	
役員会費	39,360	20,000	△19,360	
事業費	2,054,900	1,470,000	△584,900	
研修費	1,977,900	1,290,000	△687,900	日帰研修　315,000円 宿泊研修　945,000円 役員研修費　30,000円
会報発行費	63,000	100,000	37,000	
事業活動費	14,000	80,000	66,000	
事務局費	3,240	20,000	16,760	
消耗品費	0	5,000	5,000	
通信費	3,240	5,000	1,760	
旅費	0	10,000	10,000	
会費（県・郡）	84,000	84,000	0	県 64,000円 郡 20,000円
積立金	150,000	60,000	△90,000	重要図書の出版
予備費	13,500	25,000	11,500	
合計	2,356,885	1,694,000	△662,885	

平成14年度の歳入・歳出経理について監査を行った結果、適正に処理されていました。

平成15年5月25日

監事　田口勇次㊞
監事　島崎増造㊞

編集後記

◇第28号をお届けします。本協会年来の悲願でありました文化財収蔵展示館の建設が本決まりになったことは、この上ない喜びであります。今年度はその活用について研修を重ね、関係の皆さん方のお骨折りに応え、地域の発展に貢献しなければと、意を新たにしております。

◇長年の懸案でありました、牧消防ポンプ倉庫の移転の顛末を、日置康夫氏に書いていただきました。地区の皆さんの郷土愛に敬意を表するとともに、大和町のシンボルのひとつが、このように蘇ったことを喜びます。会員の皆さん、一度ぜひ妙見を訪ねてみてください。景観の美しさに改めて目を見張られることでしょう。

◇本誌を三五〇部発行しました。心ある人たちにも読んでいただいて、本会への理解をいただくとともに、本協会発展の契機にしたいと願っております。（さ）

「文化財やまと」第二八号　平成十五年六月一日発行　発行者／大和町文化財保護協会　代表者／佐藤光一　印刷者／白鳥印刷